

上田高校第65期6組同級会レポート

小林千昭（6組）

令和元年7月3日から4日にかけて上田高校第65期6組同級会が糸魚川市内で開催される。出席者はアイウエオ順に栗林正直君、小林千昭、笹沢正利君、塩川明男君、塩沢慎一君、島崎有二君、布施修一郎君、宮入正博君、森山隆夫君の9人で、幹事は島崎有二君、塩沢慎一君が務め、上田高校正門前の出発には大町（小山）教子さんに、お見送りに来ていただいた。

7月3日（水）午前10時20分、上田高校正門前に集合した9人は塩沢君の運転するハイエースワゴンに乗り、糸魚川を目指して出発する。何故、糸魚川かと言うと、幹事の島崎君は釣りが趣味で、40年以上通い続けた知り合いの漁師の店が糸魚川にあり、寿司三昧で盛り上がりという企画。行きの車内では島崎君より今回の案内通知の結果発表があり、不参加ではあるが返事があった者の近況などが報告される。ハイエースワゴンは小布施PA、妙高高原SAで、それぞれ10分ほど休憩した後、上信越道・北陸道をひた走り、12時20分に糸魚川市内にある“漁場傳兵”に到着。昼食は“漁場傳兵”特製のにぎり寿司。島崎幹事の顔で安くしてもらえた。

昼食後、ホテルにチェックイン。今回の宿は上田発祥のホテルチェーン、“ホテル・ルートイン糸魚川”。少し休んだ後再びハイエースに乗り込み、糸魚川市内から20分ほど山側に分け入った場所にある“笹倉温泉・龍雲荘”に到着。温泉にゆっくりとつかった後、貸し切り同様の休憩室で持参したパソコンとプロジェクターを使って半世紀前を思い出していただいた。そして、一旦ホテルに戻ってからタクシーで10分ほど移動して到着したのは“漁師の寿司家・楽々”。宴会終了後、ホテルへ戻る組と、スナックへ繰り出す組に分かれたが、そんなこんなで糸魚川の夜は盛り上がっていった。

翌日、ホテルをチェックアウトして、最初に向かったのは“翡翠園”。ヒスイの原石を配置した日本庭園が有名なのだが、ここで記念写真を撮影。次ぎに向かったのは“フォッサマグナ・ミュージアム”。フォッサマグナとは日本列島の真ん中を幅100km、長さ300km、深さ6000mで断ち切っている大地の裂け目で、西の境界線が糸魚川－静岡構造線。帰路は日本海を眺めながら国道8号線をひた走り、能生にある道の駅で海産物のお土産を購入。谷浜ICから北陸

道へ入り、上越 JC から上信越道へ。新井 SA に併設された道の駅で昼食。さすがに魚は食い尽くしたので大人しくラーメン屋“麵屋吉祥”へ。店内で最後のミーティングを行い最後は上田駅まで送っていただき解散。幹事の島崎君、そして塩沢君、たいへんお世話になりました。参加された皆さんお疲れ様でした。

以下写真 3 葉（島崎有二君撮影）

上田高校正門前にて

前列、左から 栗林正道、笹沢正利、大町(旧姓小山)教子、森山隆夫

後列、左から 小林千昭、塩澤慎一、島崎有二、布施修一郎、塩川明男、宮入正博



“漁場傳兵”にて



翡翠園にて

